

懐かしいあの頃へ
タイムスリップ！
写真で見る 昭和の芦屋

タイムスリップ！写真が語る
昭和ノスタルジーな芦屋の日常



めがね橋
昭和41(1966)年頃

宮川と国鉄(現JR)が立体交差する場所にありました。3つのトンネルの内、ひとつは宮川、残るふたつは道路として利用されていました。昭和42(1967)年に道路拡張のためになくなりました。

阪急芦屋川駅
南側のバス停
昭和42(1967)年



朝は多くの学生が利用し、にぎわっていました。
当時の阪急バスに時代を感じることができます。



三八商店街
昭和29(1954)年
[カラー化]

商店街の名前は、昭和3(1928)年8月頃にできたことに由来します。芦屋の中心的な商店街として賑わっていました。戦後に設けられたアーケードは、阪神・淡路大震災で被災し、なくなりました。

国道2号を走る
阪神国道電車
昭和35(1960)年



国道2号には、昭和49(1974)年3月まで阪神国道電車が走っていました。芦屋市域には「山打出」「芦屋駅前」「芦屋川」の3つの停留所がありました。



芦屋海水浴場
昭和25(1950)年頃

昭和23(1948)年に芦屋浜に市営海水浴場が開設されました。シーズン中は海の家が建ち並び、最盛時にはひと夏で34万人の出入りがあったといわれています。しかし、昭和30年代からは海水汚染がすすみ、昭和39(1964)年には閉鎖され、昭和44(1969)年から埋立工事が着工されました。

国鉄芦屋駅
北側
昭和43(1968)年



昭和45(1970)年には、3階建の橋上駅舎になりました。国鉄(JR)芦屋駅北地区の再開発では、昭和58(1983)年にアルパ芦屋、昭和61(1986)年にラポルテ本館、平成元(1989)年にラリーブ、平成4(1992)年にラポルテ東館、平成5(1993)年にラ・モール芦屋、平成6(1994)年にラポルテ北館が完成しました。

駅東商店街
昭和30(1955)年
[カラー化]



現在のJR芦屋駅の東側にあった商店街です。夏の五と十のつく日には夜店が開かれていました。この商店街は、平成6(1994)年にラ・モール芦屋として生まれ変わりました。

富田碎花旧居(表紙口ケ地)

「兵庫県文化の父」と呼ばれる詩人、富田碎花の旧居で、母屋は昭和29(1954)年築です。昭和62(1987)年からは芦屋市が公開しています。昭和の雰囲気を感じることができますので、ぜひ、お越しください。



■開館日 日曜日・水曜日
(午前10時～午後4時・入館は3時まで)12月29日～1月3日・8月13日～19日は休館。
※入館料無料



問い合わせ 国際文化推進課 ☎38-2115

芦屋思い出写真館

ホームページで芦屋市の懐かしい風景・景色などを、シーン別・年代別に分けて公開しています。

